
春雨

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春雨

【Nコード】

N1014K

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

春雨。

それは春に静かに降る雨の事である。

そして！

緑豆のデンプンで作った、透き通った線状の食品である。

別名まめそうめん。

春雨。

それは春に静かに降る雨の事である。

そして！

緑豆のデンプンで作った、透き通った線状の食品である。

別名まめそうめん。

私がこの春雨を初めて食した時、この世にこんなうまいものがあつたとは！と感動した。

そして、思った。

バケツ一杯の春雨が食べたいと。

いや、バケツ一杯では足りない。

もつと多く食べたい！

「それでこの惨状なんだな」

「うん」

私と夫はお風呂場にいた。

そして、浴槽いっぱい春雨を見て、春雨の魅力を理解しない愚かな夫は呆れている。

「これどうするんだよ？」

「そりゃ、食べるわよ」

ため息を吐く夫。

一体何が不満なんだというのだろうか？

「まあ、好きに食べたら良いけどよお。風呂入れねえだろうがよ」

「そこはちゃんと考えているわよ。貴方がこの中に入れば出汁がとれて一石二鳥に・・・」

「なるか！」

「ならないの？」

「なる訳ないだろ。その前に出汁取るって言うことは、もしかして春雨と白滝間違えてんじゃないか？」

「そんなことは無いわよ。ちゃんと・・・」

私は浴槽の春雨を一掴み、ちゅるりと口の中に吸いこむ。

「うん。おいしい。この味は春雨。私の求める味、間違いないわ」

「・・・そうか、ならいいけど・・・味ねえだろ、それ・・・」

ぼつりと言った夫の独り言を懐の広い私は許して、話を先に進める。

「あ、それとちゃんと浴槽に入る前に体洗ってね」

「いや、もう今日は風呂入らないから」

不潔な夫が浴槽をあとにしようとしていたので、

「私が一肌脱いで、体洗ったげるって言っても？」

とたん夫の動きが止まる。

「・・・いや、いい」

「一肌脱ぐくらいじゃだめってことなら、下着姿くらいじゃだめってことかしら？それじゃあ裸の方がいいのかしら？それともスクール水着とかのほうが好みなのかしら？」

「どちらかと言うとスクール水着の方が・・・ってそんな話じゃねえ！そんなに出汗が欲しいなら自分で出汗になりゃいいじゃねえかよ」

「やあよ。何で自分の出汗を食べなくちゃいけないのよ」

「俺ならいいのかよ？」

「良いわよ。ちゃんといつも飲んであげてるじゃないの」

天を見上げ、何かを思い出そうとしている複雑そうな顔の夫。

「・・・いや、まあ、あれも出汗っちゃ出汗だけだな。ってそんな話してるんじゃないわねえ」

「じゃあ、どんな話よ」

「それは・・・もう、いいや。入るわ。風呂」

「そう。でも、待つて。その前に重大な事を決めとかなきゃいけないの」

「は？重大な事？」

そう、それは避けては通れない決断の分かれ道。

最後に残された重大な決断をしなくてはいけないのだ。

「ポン酢とゴマダレ、どっちで食べた方がおいしいと思うっ？」
「知るかぁ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1014k/>

春雨

2010年12月19日07時17分発行